

年 組 番 名前

令和6年度

第2回進路説明会

令和6年 10 月 15 日(火)～

府中市立府中第九中学校

第2回 進路説明会 目次

- 1 都立入試における主な変更点・注意点等について……1
- 2 東京都の高校入試日程の流れと今後の予定……2～4
- 3 都立高等学校等入学者選抜実施要項について……5～10
- 4 都立産業技術高等専門学校入学者選抜実施要項……11
- 5 今後の入試スケジュール……12
- 6 私立高等学校の入学者選抜について……13
- 7 就職について……14
- 8 今後の注意……14
- 9 お問い合わせ……15
- 10 進路選択のポイント、おわりに……16～17

(各資料)

- 1 自己PRカード
- 2 「本校の期待する生徒の姿」(抜粋)
- 3 調査書作成にあたって
- 4 調査書作成願
- 5 推薦願・併願優遇制度利用願

1 令和7年度東京都立高等学校入学者選抜における主な変更点について

事項	内 容
在京外国人生徒等対象の選抜	・在京外国人生徒等対象の選抜（4月入学生徒の選抜）について、令和7年度入学者選抜から一橋高校、浅草高校、荻窪高校、砂川高校においても実施する。 ・これまでは、在京外国人生徒対象の選抜の応募資格について、外国籍であることを要件としていたが、国籍を問わず、日本語指導が必要な者の応募資格を認めることとする。これにより、「在京外国人生徒対象の選抜」から、「在京外国人生徒等対象の選抜」と名称を改める。 ・入国後の在日期間について、入学日現在入国後3年を超える者のうち、在日期間が3年3か月までは、入国後の在日期間を入学日現在3年以内とみなすこととする。
受検上の配慮	・障害のある受検者や日本語指導を必要とする生徒等に対する特別措置について、「受検上の配慮」として名称を変更する。
インフルエンザ等学校感染症罹患等に対する追検査について	・月経随伴症状、痴漢被害等により第一次募集を受検することができなかった場合に、追検査の対象となることを実施要綱上に明記する。
都内公立中学校在籍のスピーキングテスト不受験者に対する措置について	これまでは、都内公立中学校に在籍する者のうち、やむを得ない理由によりスピーキングテストを受験することができなかった者で、スピーキングテスト不受験者に対する措置を希望する者は、都立学校教育部高等学校教育課 入学選抜担当に措置申請書を提出し、承認を得ることとしていたが、グローバル人材育成部国際教育企画課国際教育推進担当へ措置申請を行い、承認を受けることとする。

学科を改編する高校、募集を開始する予定の高校及び募集を停止する予定の高校

学科を改編する高校	六郷工科高校（ものづくり工学科） ※（ ）内の学科名が改編後の学科
募集を開始する高校	【定時制課程（1校）】 立川緑高校（仮称、チャレンジスクール） ※令和6年10月頃に正式決定
募集を停止する高校	【定時制課程（1校）】 立川高校（普通科） ※令和6年10月頃に正式決定

令和7年度東京都立高等学校入学者選抜の日程

1 推薦に基づく選抜

	令和7年度入学者選抜	【参考】令和6年度入学者選抜
出願受付期間	[入力期間] 令和6年12月20日(金)～ 令和7年1月16日(木)午後5時まで [書類提出期間] 令和7年1月9日(木)～16日(木)	令和6年1月12日(金)～18日(木)
実施日	令和7年1月26日(日)・27日(月)	令和6年1月26日(金)・27日(土)
合格発表日	令和7年1月31日(金)	令和6年2月2日(金)

(注1) 都立国際高校における国際バカロレアコースの入学者選抜についても上記日程で実施する。ただし、入学願書は学校へ持参することとし、出願受付期間は1月21日(火曜日)及び22日(水曜日)とする。

(注2) インターネットを活用した出願に係る出願受付期間等については、別途定める。以下、学力検査に基づく選抜のうち、第一次募集及び分割前期募集及び海外帰国生徒対象の選抜についても同様とする。

2 学力検査に基づく選抜

(1) 第一次募集及び分割前期募集(注3)

	令和7年度入学者選抜	【参考】令和6年度入学者選抜
出願受付期間	[入力期間] 令和6年12月20日(金)～ 令和7年2月5日(水)午後5時まで [書類提出期間] 令和7年1月30日(木)～2月5日(水)	令和6年1月31日(水)～2月6日(火)
実施日	令和7年2月21日(金)	令和6年2月21日(水)
合格発表日	令和7年3月3日(月)	令和6年3月1日(金)

(2) 分割後期募集及び全日制第二次募集(注3, 4, 5) ※入学願書は窓口への持参により受付

	令和7年度入学者選抜	【参考】令和6年度入学者選抜
出願受付日	令和6年3月6日(木)	令和6年3月6日(水)
実施日	令和6年3月11日(火)	令和6年3月9日(土)
合格発表日	令和6年3月14日(金)	令和6年3月14日(木)

(3) 定時制第二次募集 (注4) ※入学願書は窓口への持参により受付

	令和7年度入学者選抜	【参考】令和6年度入学者選抜
出願受付日	令和6年3月24日(月)	令和6年3月21日(木)
実施日	令和6年3月27日(木)	令和6年3月26日(火)
合格発表日	令和6年3月28日(金)	令和6年3月27日(水)

(注3) 分割募集：定員を前期と後期に分割し、2回に分けて行う募集

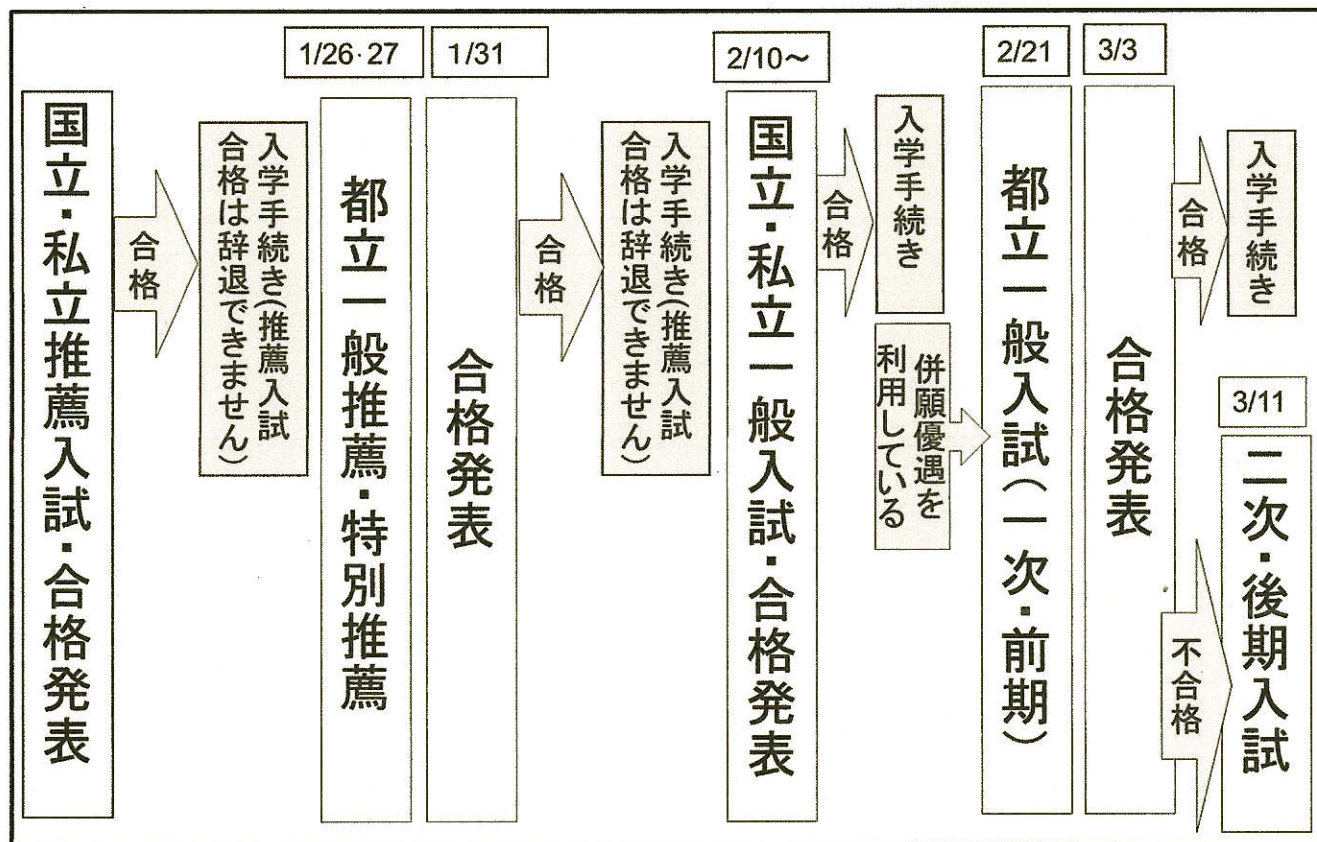
(注4) 第二次募集：第一次募集で欠員のある学校が行う欠員補充の募集

(注5) インフルエンザ等学校感染症罹(り)患者等に対する追検査は、(2) 分割後期募集及び全日制第二次募集の日程で実施する。

〔参考〕 東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

- 1 中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。
- 2 出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏ることのないようにする。
- 3 出題に当たっては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようになる。

2 東京都の高校入試の流れと今後の予定



これからの予定

いろいろな書類の提出があります。内容と提出日の確認

進路面談 10月22日～10月29日

受験写真撮影 11月18日



進路面談 11月28日～12月5日

調査書等作成願の提出 12月中旬

校長・副校長による面接 11月～2月

3 都立高等学校等入学者選抜実施要項について

1 入学者選抜の日程

区 分	推薦に基づく選抜 一般推薦 特別推薦	学力検査に基づく選抜	
		一次募集 分割前期募集	二次募集 分割後期募集
出 願	[入力期間] 令和6年12月20日(金) ～令和7年1月16日(木) 午後5時まで ※入力期間とは、インターネット出願において、インターネット上の出願サイトに志願者情報等を入力することができる期間 [書類提出期間] 1月9日(木)～16日(木) ※書類提出期間とは、出願サイトへの入力に加え、出願に要する書類を志願先の都立高校へ提出する期間	[入力期間] 令和6年12月20日(金) ～令和7年2月5日(水) 午後5時まで ※入力期間とは、インターネット出願において、インターネット上の出願サイトに志願者情報等を入力することができる期間 [書類提出期間] 1月30日(木)～2月5日(水) ※書類提出期間とは、出願サイトへの入力に加え、出願に要する書類を志願先の都立高校へ提出する期間	3月6日(木)
志望変更	変更できない	取り下げ 2月12日(水) 再提出 2月13日(木)	取り下げ 3月7日(金) 再提出 3月10日(月)
学力検査 実技面接	1月26日(日)・27日(月)	2月21日(金)	3月11日(火)
発 表	1月31日(金)	3月3日(月)	3月14日(金)
入学手続き	1月31日(金) 15:30 まで 2月3日(月) 正午まで	3月3日(月) 15:30 まで 3月4日(火) 正午まで	3月14日(金) 15:30 まで 3月17日(月) 正午まで

(2) 定時制

区 分	推薦に基づく選抜 定時制課程単位制高校 (チャレンジスクールは除く)	学力検査に基づく選抜	
		一次募集	二次募集
出 願	[入力期間] 令和6年12月20日(金) ～令和7年1月16日(木) 午後5時まで [書類提出期間] 1月9日(木)～16日(木)	[入力期間] 令和6年12月20日(金) ～令和7年2月5日(水) 午後5時まで [書類提出期間] 1月30日(木)～2月5日(水)	3月24日(月)
志望変更	変更できない	変更できない ※一部の高校を除く	取り下げ 3月25日(火) 再提出 3月26日(水)
学力検査 実技面接	1月26日(日)	2月21日(金)	3月27日(木)
発 表	1月31日(金)	3月3日(月)	3月28日(金) 午後
入学手続き	2月2日(金) 15:30 まで 2月5日(月) 正午まで	3月3日(月) 午後 3月4日(火) 午後8:00	3月28日(金) 午後 3月31日(月) 午後7:00

2 推薦に基づく選抜について

(1) 推薦の目的

①一般推薦の目的

基礎的な学力を前提に、思考力、判断力、表現力等の課題を解決するための力や、自分の考えを相手に的確に伝えとともに、相手の考えを的確に捉え人間関係を構築するためのコミュニケーション能力など、これからの社会にあって生徒たちに必要となる力を評価し、選抜する。

②文化・スポーツ等特別推薦（以下 特別推薦）の目的

卓越した能力をもつ生徒の個性を一層伸長させ、併せて各都立学校の個性化と特色化を推進する。

(2) 推薦対象学科及び対象人員率（募集人員については10月中旬に発表予定）

- ・普通科では、多くの学校が20%を推薦率としている。
- ・コース制、単位制、専門学科の学校は、30%を推薦率としているところが多い。

(3) 応募資格

志願する都立高校を第一志望とする者で、一般推薦（文化・スポーツ等特別推薦）に志願する意思があり在学している中学校の校長の推薦を受けた者。

(4) 出願方法 志願者がインターネット上の専用サイトに入力し、その他出願に要する書類は郵送。

①一般推薦

- ・1校1コース又は1科（分野）に限り出願できる。出願後の志願変更はできない。

②文化・スポーツ等特別推薦

- ・特別推薦を実施する都立高校の種目のうちから1種目を指定し、1コース又は1科に限り出願する。出願後の志願変更はできない。ただし、同一校の一般推薦に出願することができる。この場合の出願方法は、上記の①の一般推薦における出願方法による。

③理数等特別推薦

- ・立川高校、科学技術高校の創造理数科において実施。

(5) 出願書類

①一般推薦 中学校長が作成した一般推薦書・調査書とともに、次の書類を提出する。

- ア 入学願書
- イ 自己PRカード（資料1参照）
- ウ 入学考査料 2,200円

②特別推薦 中学校長が作成した特別推薦書・調査書とともに、次の書類を提出する。

- ア 入学願書 ※（一般推薦を同時に志願する者は、特別推薦の内容と合わせて1枚の願書に記入する。）
- イ 自己PRカード
- ウ 入学考査料 2,200円

(6) 選考

①一般推薦

- ア 選考は、各高校があらかじめ定めた選考方法に基づき、志願者全員に個人面接等を実施する。調査書点、個人面接点の他に、学校によって小論文または作文点、実技検査点を加え、それらを総合的に判断して行う。 ※集団討論は必要と判断した学校で実施。
- イ すべての高校で、調査書における必修教科の観点別学習状況の評価（全37観点）又は、評定（9教科）のどちらか一つを調査書点として点数化する。ただし、エンカレッジスクールとして指定された都立高校は、観点別学習状況の評価を用いる。
- ウ 自己PRカードは点数化しないで、面接資料とする。

②特別推薦

- ア 選考は、各高校があらかじめ定めた選考方法に基づいて行う。
- イ 選考に当たっては、自校の教育活動の実績や特色などに基づいて適切な基準を定める。面接の他、実技検査を適宜組み合わせ、選考資料として用い、総合的に判断して行う。

ウ 調査書における必修教科の観点別学習状況の評価又は評定の扱いは、一般推薦の扱いと同様に各高校が適切に定める。

エ 自己PRカードは、面接資料とする。

(7) 小論文、作文の例

[小論文]

問1) 日本とアメリカ合衆国の高校生の将来に対する意識調査に関する二つのグラフを比較し、日本の高校生の特徴を述べる。

問2) 資料の内容を踏まえ、どのように生き方をしたいと考えるか、具体的な経験に触れた上で述べる。

[作文] 「自分が人の役に立てたこと」について、自らの具体的な体験と、その体験を今後どのように生かしていくかを述べなさい。

☆個人面接における評価の観点には、例えば次のものがある。

- ・コミュニケーション能力（相手の意見を正しく理解し、自分の考えを相手に的確に伝える力）
- ・出願の動機・進路実現に向けた意欲（入学の熱意と入学後の目標を具体的に説明する力）
- ・規範意識・生活態度（入学後の生活全般に対する心構えを具体的に説明する力）

推薦入試について

- ・高倍率である。（普通科応募倍率 R4…2.96倍 R5…2.87倍 R6…2.87倍）
- ・推薦に基づく選抜で合格発表後の辞退はできない。
- ・九中の推薦基準は、15 ページを参照

3 学力検査に基づく選抜について（第一次募集・分割前期募集）

(1) 募集人員「令和7年度東京都立高等学校等第1学年生徒募集人員」に定める。

（募集人員については10月中旬に発表予定）

(2) 応募資格

①令和7年3月に中学校を卒業する見込みの者。

②保護者と同居している者で都内に住所を有し、入学後も引き続き都内から通学することが確実な者。

※推薦に基づく選抜の合格者は出願できない。

(3) 出願方法 志願者がインターネット上の専用サイトに入力し、その他出願に要する書類は郵送。

都立高校を志願する者は、1校1コース又は1科に限り出願できる。ただし、志望する同一の都立高校内にある同一の学科内に2科（2分野）以上ある場合は、他の全ての科（分野）に志望順位を付けて出願することができる。

(4) 出願書類（卒業見込み者）

[全日制]	ア 入学願書	イ 入学考査料 2,200 円
	ウ 調査書	エ 自己PRカード（面接実施校）
[定時制]	ア 入学願書	イ 入学考査料 950 円
	ウ 調査書	エ 自己PRカード

(5) 志願の変更

願書提出後、次の表の○を付した変更について、1回に限り行うことができます。

再提出 取下げ			全日制	定時制		
				定時制単位制		定時制単位制以外
				チャレンジスクール (注1) 八王子拓真高校 (チャレンジ枠)及 びグループA(注2)	グループB(注3)	
全 日 制			○	×	×	×
定 時 制	定 時 制 単 位 制	チャレンジスクール(注1) 八王子拓真高校(チャレンジ 枠)及びグループA(注2)	○	○	×	×
		グループB(注3)	×	×	×	×
	定時制単位制以外		×	×	×	×

(注1) チャレンジスクールとは、六本木高校、大江戸高校、世田谷泉高校、稔ヶ丘高校、桐ヶ丘高校、小台橋高校をいう。

(注2) グループAとは一橋高校、浅草高校、荻窪高校、八王子拓真高校(一般枠)、砂川高校をいう。

(注3) グループBとは新宿山吹高校、六郷工科高校、飛鳥高校、板橋有徳高校、青梅総合高校、東久留米総合高校をいう。

[変更可の例]

- ①府中高校の普通科へ出願後、府中工科高校の情報技術科へ志願変更。(その逆も可能)
- ②国際高校の国際学科へ出願後、コースを置く小平高校外国語コースへ志願変更。(その逆も可能)
- ③農業高校の農業学科食品科学科へ出願後、同じ農業高校の家庭学科食物科へ志願変更。(その逆も可能)
- ④府中工科高校の電気科へ出願後、田無工科高校の機械科へ志願変更。(その逆も可能)

[変更不可の例]

- ①府中高校の普通科へ出願後、取り下げ、思い直して再び府中高校へ再提出はできない。
- ②農業高校の農業学科食品科学科へ出願後、同じ農業高校の農業学科都市園芸科へ再提出はできない。
- ③府中工科高校情報技術科へ出願後、志望順位変更のために再提出はできない。
(同一校同一学科への再提出はできない。志望の順位の変更はできない。)
- ④全日制から定時制へ志願変更はできない。逆も不可。
- ⑤全日制からチャレンジスクールへの志願変更はできない。その逆は可能。
- ⑥定時制高校同士も志願変更できない。

(6) 選考

選考は、調査書・学力検査(面接、小論文又は作文、実技検査等を実施する高校にあってはそれらを含む。)を総合した成績(総合成績)、入学願書による志願及び都立高校長が必要とする資料(自己PRカードを含む。)を用いて、総合的に判断して行う。なお、面接を行う学校において、自己PRカードを面接資料として活用する。ただし、自己PRカードは点数化しない。

◎換算内申点の計算

※都立入試の総合得点の計算には、内申点を特別な方法で換算した数値（換算内申）を使います。

5教科入試の場合（原則すべての全日制の学校で実施）

- (a) 試験科目以外の4教科の成績を足し2倍する。
- (b) 試験の科目5つの成績を足す。
- (a) (b) 両方を合わせたものが換算内申点。

3教科入試の場合（第二次募集・分割後期募集および定時制の一部の学校で実施）

- (a) 試験科目以外の6教科の成績を足し2倍する。
- (b) 試験の科目3つ（ほとんどの学校が国・数・英）の成績を足す。
- (a) (b) 両方を合わせたものが換算内申点。

換算内申点は、5教科入試では、満点（オール5）が65点となる。

3教科入試では、満点（オール5）が75点となる。

（例）府中九美さん の場合

国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	保体	技術
4	3	5	3	5	5	4	3	4

5教科 → $(4 + 3 + 5 + 3 + 5) + (5 + 4 + 3 + 4) \times 2 = 52$ → 換算内申は「52」

3教科 → $(4 + 3 + 5) + (3 + 5 + 5 + 4 + 3 + 4) \times 2 = 60$ → 換算内申は「60」

◎調査書点と学力検査の計算（総合得点の算出方法）

（1）学力検査と調査書の比率

①全日制課程

〔第一次募集・分割前期募集〕 学力検査：調査書
原則 全ての都立高校で 7 : 3

〔第二次募集・分割後期募集〕 学力検査：調査書
原則 全ての都立高校で 6 : 4
※学力試験は3教科（国数英）

②定時制課程

〔第一次募集・分割前期募集〕 学力検査：調査書
原則 全ての都立高校で 7 : 3
または 6 : 4

〔第二次募集・分割後期募集〕 学力検査：調査書
原則 全ての都立高校で 6 : 4
または 5 : 5

例）府中九美さんがA高校(学力検査：調査書点＝7：3の学校)を受験。
5教科の得点は402点 だった。

(2) 調査書点を計算してみよう

学力検査と合わせて1000点満点の計算となるので換算内申を

5:5は500点に、6:4は400点に、7:3は300点にして計算する。

$$(\text{換算内申}) \div 65 \times (\text{斜め字の点数}) = \text{調査書点}$$

九美さんの換算内申は 52点

7:3の学校なので、

$$(52 \div 65) \times 300 = 240 \rightarrow \text{調査書点 (持ち点) は 「240点」}$$

(3) 学力検査点を計算してみようー傾斜配点なしー

調査書点 (内申点) と合わせて1000点満点の計算となるので、

5:5は500点 6:4は600点 7:3は700点にして計算する。

$$(\text{当日の入試得点}) \div (5 \text{教科は} 500 \cdot 3 \text{教科は} 300) \times (\text{斜め字の点数}) = \text{学力検査点}$$

九美さんは、5教科で自己採点402点

7:3の学校なので、

$$(402 \div 500) \times 700 = 562 \rightarrow \text{換算得点は「562点」}$$

(4) 上記(2)、(3)から総合成績を計算してみよう

「(2) 調査書点」と「(3) 学力検査点」の合計が総合得点(1000点満点)となり、面接等を実施しない学校はこれが総合成績となる。したがって、府中九美さんの総合得点は・・・

$$240 \text{点 (調査書点)} + 562 \text{点 (学力検査点)} = \underline{802 \text{点}} \quad \text{となる。}$$

(5) 中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) 結果の活用

都立高等入学者選抜において、令和5年度入学者選抜(令和4年度実施)から東京都中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) の結果が活用されることになりました。

令和5年11月26日(日)に行われるテスト結果がAからFまでの6段階で評価され、提出された評価を20点満点の点数として取り扱います。

ESAT-J 結果	A	B	C	D	E	F
都立高校で取り扱う点数	20点	16点	12点	8点	4点	0点

学力検査の得点と調査書点の合計(1000点満点)にこの点数を加え、総合得点を算出します。

例

学力検査の得点	7 : 3	調査書点		
500点		65点		
100点×5教科		(5教科×5) + (4教科×5×2)		
↓		↓		
700点 (換算後)	+	300点 (換算後)	+	20点
				= 1020点

ESAT-J 結果

4 その他

- ・第一次募集・分割前期募集において、自校で学力検査問題を作成
自校で作成した問題（国語、数学、英語）と都立高校共通問題（社会、理科）で学力検査を実施。

	学校名	作成方法
自校	日比谷高校、戸山高校、青山高校、西高校、八王子東高校 立川高校、国立高校、新宿高校、墨田川高校、国分寺高校	国語、数学、英語の学力検査問題をそれぞれの学校（自校）で作成

※国際高校は英語の学力検査問題を自校で作成

・入試結果に関して

① 「個人情報の提供に関する同意署名欄」について

都立高校から中学校へ受検者の入試得点等を提供する為に、受検者または保護者の同意を得ることが必要となります。提供された検査結果は、個人情報としてその秘密を厳守し、進路指導や学習指導以外の目的には一切使用いたしません。提出は出願時になります。何卒、協力のほど、よろしくお願いいたします。

② 「学力検査等得点表・学力検査における答案の開示請求書」について

「学力検査や面接等の得点結果の本人への開示」については、中学校を介して本人に伝えることができません。開示請求は本人か保護者が高校へ行き、直接行うことになります。

※「開示請求書」は中学校にあります。必要な方は申し出てください。また、請求する場合、受検票・本人確認ができるもの等が必要となります。

受付開始時期は、合格者と不合格者と別です。

不合格者・・・推薦・第一次募集・分割前期は3月5日（水）、第二次募集・分割後期は3月18日（火）

合格者・・・5月1日（木）

※ 受付終了日は8月29日（金）

・インフルエンザ等学校感染症罹患者の追検査

第一次募集 検査日 2月21日（金） 合格発表 3月 3日（月）

追検査 願書受付 3月 6日（木） 検査日 3月11日（火） 3教科（国語、数学、英語）

合格発表 3月14日（金）

※志願者は「インフルエンザ等学校感染症罹患者等に対する措置申請書」を状況発生後直ちに中学校長を経由して第一次募集において出願した都立校長に提出する。

4 都立産業技術高等専門学校(=都立高専)入学者選抜実施要項について

1 選抜種別

『推薦に基づく選抜』及び『学力検査に基づく選抜』を実施

2 検査内容

(1) 推薦に基づく選抜

中学校長が作成する調査書、小論文及び面接

(2) 学力検査に基づく選抜

学力検査（国語・数学・英語）及び中学校長が作成する調査書

3 選抜日程

	推薦に基づく選抜	学力検査に基づく選抜（一次）
入学願書受付日	1月 9日（木）～16日（木）	1月30日（木）～2月5日（水）
検査実施日	1月27日（月）	<u>2月14日（金）</u>
合格発表日	1月31日（金）	<u>2月20日（木）</u>

※検査実施日、合格発表日が都立一次と別日程となる。

5 今後の入試のスケジュール

月	週	学校行事など	私立高校	国立高等専門学校	都立高校
11月	1	期末考査 (6日・7日・8日)			
	3	受験写真(18日) ※希望者のみ			
12月	1	教育相談(11/28～12/5)	15～17日 私立高校入試相談		
	4	終業式			
1月	1	始業式		12/25～1/8 国立高専 推薦出願	
	2		15日頃 私立推薦出願	19日 国立高専 推薦入試	9～16日 都立推薦出願
	3		21日 私立推薦入試 22日～ 私立推薦発表・手続	24日 国立高専 推薦発表	
	4		25日 私立一般出願	20～24日 国立高専一般 出願	26～27日 都立 推薦入試 27日 都立高専 推薦入試
					31日 都立推薦 発表・手続き
2月	1			9日 国立高専 一般入試	1/30～2/5 都立一次出願
	2		10日～私立一般入試 11日～私立一般発表	14日 国立高専 一般発表	12日 都立願書取り下げ 13日 都立願書再提出 14日 都立高専 一次入試
	3				20日 都立高専 一次発表 21日 都立一次入試
	4	学年末考査 (25日・26日・27日)			
3月	1	作品展(6日・7日)			3日 都立一次発表 6日 都立二次出願
	2				11日 都立二次入試 14日 都立二次発表
	3				24日 都立定時二次出願
		卒業式(19日)			27日 都立定時二次試験 28日 都立定時二次発表

6 私立高等学校の入学者選抜について

1 都内私立高校入学者選抜の日程（詳細は、各学校によって異なります。）

区 分	推 薦 入 試	一 般 入 試	二 次 募 集
願書受付	1月15日（水）以降	1月25日（土）以降	最初から二次募集を実施すると決めている学校と、未定の学校がある。
試験日	1月22日（水）以降	2月10日（月）から	
発表	入学試験の当日または翌日が一般的		
入学手続	一般入試では、延納願いにより公立発表の翌日まで待つ学校が多い。		

2 選抜の区分

(1) 推薦

推薦入試とは、「その学校を第1希望とするもので、出身中学校長が推薦する人」の選抜試験です。推薦入試の条件は次の①～③のようになります。

① 当该校が第一志望である。②出身中学校長の推薦がある。③当该校が定めた推薦条件に該当した者
また、推薦された（推薦での試験が認められた）ことが、入学試験の合格を確約・内定を意味するものではありません。（推薦＝合格ではない）

12月16日（月）を開始として、中学校と高校間で「入試相談」が行われ、推薦入試受験の可否が示されます。

○推薦条件の例 ・3年2学期末までの欠席が5日以下、遅刻早退の回数が合計で10日以下
・3年生の内申(素内申※)で5教科の合計が18以上（9科に1は不可）
以上、二つの条件を満たしている。

※ 私立高校の場合は、都立高校のように、内申を換算せず、そのまま合計したものを使います。
それを「素内申」といいます。

(2) 併願優遇

当该校以外の高校が第一志望で、当该校を第二志望として受験する際に設けている制度です。

第一志望を都立のみ可とする学校と、私立でも認める学校など、学校によって異なります。

推薦と同様、12月16日（月）を開始として、中学校と高校間で「入試相談」が行われ、併願優遇制度を利用した受験の可否が示されます。

○優遇の例 ・入試得点に20点加点する
・加点ではなく、最低得点を決めている

※ 併願優遇の場合の基準は、推薦の基準より高くなる傾向です。

出願時に延納願いの提出がないと入学手続きを待たない学校があるので注意。

都立の推薦に合格しても入学料の支払いを求められることがあります。

第一志望の都立高校が一次で不合格だった場合には、必ず進学します。都立二次募集は受検不可。

(3) 一般受験

主に学力試験、面接、調査書などで可否を決定する。中学校での学習状況や生活状況を重視する学校もあり、そのため面接で人物をみられることも多い。

◎ 私立推薦入試受験希望者と併願優遇受験希望者については、12月16日から開始される入試相談に間に合うように、受験の意志決定や諸書類の記入などを完了させる必要があります。それらを希望する際は、早めにその意思を明確にしてください。また、推薦願・併願優遇制度利用願を記入、提出していただきます。依頼書の提出がない場合は、手続きを行うことができません。

	種 類	条 件	試験内容	注意事項
1	推薦	その学校が第1希望。	面接や作文、小論文などでの選考が多い。	合格したとき、他の学校を受験できない。
2	併願優遇 (都立との併願)	その学校が第2希望。(都立が第1志望だが、その都立が不合格なら当該校へ進学する)	一般受験と同じ学科試験を受ける。(入試相談あり。)	第1志望の学校の結果を、中学校を通じて高校に伝える。不合格の時、直ちに入学手続きをする。都立二次は受けられない。
3	併願優遇 (私立との併願)	その学校が第2希望。(第一志望は他の私立。都立受験ができる場合もある。)	一般受験と同じ学科試験を受ける。(入試相談あり。)	併願受験した学校の結果によって、期限内に入学手続きをする。
4	自己推薦	その学校への入学に強い意欲を持っていること。	一般受験と同じ学科試験を受ける。	条件をよく確かめてこの制度を利用する。
5	一般受験	なし	学力試験・面接など	入試の得点によって合否が決まる。基本的には延納なしだが、条件をよく確かめて利用すること。

7 就職について

ハローワークに斡旋を依頼する際には、本人（保護者）、学校、ハローワーク（事業所）と連絡を取り合って進めます。

8 今後の注意

- ① 推薦・併願優遇等での受験は、10月の三者面談で志望校をある程度決めていくことになります。一学期の成績または二学期の成績（内申）で正式決定できるように、ご家庭であらかじめ検討しておいてください。11月28日からの面談で、受験校を決定していきます（資料5）。
- ② 私立高校の願書は、各自で準備してください。早めに必要なものをチェックしておくことが必要です。
- ③ 説明会への参加や出願をするところから入試が始まっていると考え、姿勢・態度・服装・言葉遣い等きちんとしておくようにしてください。自宅からの交通経路や所要時間も確認しておきましょう。
- ④ 受験用の写真は、11月18日（月）に学校で業者の方に撮影していただきます（希望者のみ）。写真のサイズは、受験校によって異なります。必要なサイズを確認しておきましょう。昨年度から都立高校も全てWEB出願になったため、写真はデジタルデータが必要になっています。
- ⑤ 複数校を受験(受検)すると試験・発表・手続きの日程など混乱しがちです。日程を整理しておきましょう。

9 お願ひ

- ① 進路指導は、原則として担任が窓口です。しかし、担任が個人的に判断して指導にあたることはありません。学校全体で進めていきます。そこで検討したことを踏まえて、進路について意見やアドバイスをします。その点をよくご理解の上、お困りのこと、悩みごとは遠慮せず担任にお尋ねください。
- ② いろいろな書類のトラブルを防ぐために「調査書等作成願（封筒）」（資料4）を提出していただきます。封筒は、生徒に渡します。調査書などが特別に早く必要な場合、急に必要になった場合などは担任に申し出てください。
- ③ 調査書の扱いについては、くれぐれも慎重をお願いいたします。都立高校の調査書は中学校から高校宛に送付しますが、私立高校等の調査書は厳封して生徒に直接渡します。そのまま、提出校へ提出します。開封すると無効になります。調査書の内容については、「調査書記載事項通知書」として、3学期にお渡しします。
- ④ 調査書を提出した際に高校から渡される「調査書受領書」を中学校に提出してください。また、何らかの事情で不要になった調査書は、封をしたまま学校に返却してください。
- ⑤ 私立高校の場合、調査書の様式に高校独自のものを使う学校と、公立学校の様式でも可とする学校があります。募集要項でご確認の上、高校独自の調査書が求められている場合には、調査書を要項（要項はコピー可）と一緒に担任へ提出してください。

府中第九中学校推薦基準（再掲）

令和6年4月

- (1) 目的意識 志望校の教育理念や求められている生徒像を理解して、強い進学意志を持っていること。
- (2) 学 習 意欲をもってまじめに授業に参加し、学力の向上、心身の向上に積極的に取り組んでいること。
- (3) 生 活 中学生としての基本的な生活習慣やマナーを身につけ、「生活の決まり」を守って身なりを整え行動ができること。
- (4) 特別活動 学級活動（係り、当番、行事など）、生徒会や委員会活動、部活動、ボランティア活動などに熱心に、かつ継続的に取り組んでいること。
- (5) その他 卒業までの中学校生活、進路先の高校においても上記(1)～(4)に当てはまる行動をとり、努力を続けられるもの。
- (6) 以下の事項に該当する者は、推薦入試対象者にはなれません。
 - ① 暴力行為、喫煙、窃盗、その他触法行為や刑法等における処罰の対象となる行為を行い、改善がみられないもの。
 - ② 病気やケガなどのやむを得ない事情がある場合を除き、欠席や遅刻が著しく多いもの。
 - ③ 学校生活のルールを守らず、以下のような行為を行い、改善が見られないもの。
 - ・ 授業遅刻、授業の抜け出し ・ 怠学傾向 ・ 授業妨害 ・ 暴言暴力
 - ・ 器物破損 ・ 菓子類の飲食 ・ 不要物の持ち込み ・ 教師の指導に従わない
 - ・ 異装 ・ 定期考査での不正行為 ・ その他迷惑行為

10 進路選択のポイント

① 人生の夢・興味・学ぶ姿勢を大切に。

自分のなりたい姿がはっきりしていると、それに向けて力がわいてきます。しかし、まだ夢がはっきりしていない人も多いことでしょう。そんな人は、「今の興味は何か」を大切にしてください。いつかその興味が生かされ、自分の将来に役立つかもしれません。また、将来の夢があるなしに関わらず、進学之道を選んだら、勉強するという姿勢が大切です。学校は学ぶ場です。中学を卒業したらもう義務教育ではないので、勉強に向かう姿勢が身につけていないと、学校を途中でやめてしまうことになってしまいます。そのこともふまえ、自分に合った進路先を慎重に考えていきましょう。

② 今の自分の実力（学力・体力・技能など）を客観的に知っている。

自分の実力を大きく思い感じたいのは、誰でも同じです。でもそれはゆがんだ鏡で自分の姿を見ているようなものです。学力ならば会場テストで、体力や技能ならば高校の体験入部や体力テストの結果などで、正しく自分の実力をつかんでおきましょう。

③ 複数の進路先の、最新で確実な情報をもっている。

選択肢は一つではありません。「これしかない。」と思いこんでしまうと柔軟性や視野が狭くなったり、偏った判断をしてしまいがちです。また、情報が古かったり誤っていたら、正しい判断はできません。いくつかの道（進路）を考えることができる考えと気持ちの余裕、正しい最新の情報を手にしましょう。

④ 家族で話し合い、お互いの考えや思いを理解しあっている。

最後まであなたを応援してくれるのは、家族です。また、義務教育ではなくなるので、経済的な責任を負うのは保護者です。そのこともぜひ心に留めておいて欲しいものです。本人と保護者のお互いが、相手の立場や思いを伝え合い、「こういうことを考えているんだ。」と分かり合いましょう。保護者の皆様には、わが子の羅針盤として適切な助言をお願いします。

◆おわりに～留意点・考え方～

○ 進路選択は人それぞれ、その動きも一人一人違う。

一人一人の進路も、考えも、学力も、条件も、特性も違うのですから、当然先生の助言も一人一人に対して違います。また、日程も様々です。周りばかりを気にせずに、先生や保護者を信頼し、自分の考えをしっかりと持ち、受検（受験）に臨みましょう。

○ 連絡・提出物には細心の注意を。

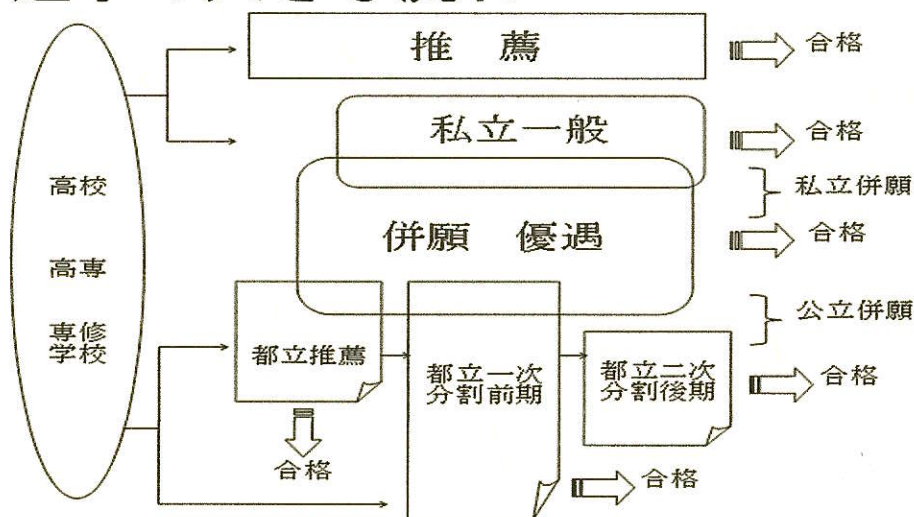
これからの配布物や提出物は、重要な物ばかりです。場合によっては連絡を受けて家庭で対応し、短時間で結論を出し、対応しなければならないこともあります。しっかりと期限を守って提出してください。

○ チェックリストを載せました。今度の三者面談までにこのチェックリストを参考にご家庭で十分話し合ってください。

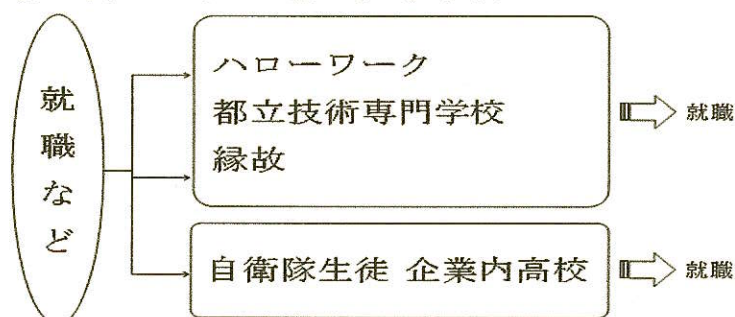
〈 進路選択チェック 〉 A:十分に実行した B:実行した C:実行していない

チェック項目		本人	保護者
1	将来のことについて、家族で話し合いができています。	A B C	A B C
2	将来の進路を考えて、いろいろな手段で情報を集めている。	A B C	A B C
3	現在の成績における調査書点（内申点）や、入試での得点力を把握している。	A B C	A B C
4	複数の学校見学、説明会、体験入学に行った。	A B C	A B C
5	志望校の教育方針・カリキュラムの内容、卒業後の進路状況について理解している。	A B C	A B C
6	志望校での生活（通学時間、部活、校則）についてシミュレーションした。	A B C	A B C
7	志望校の入学金、年間授業料、通学定期等の経済的な事柄について把握している。	A B C	A B C
8	志望校について話し合い、親子の考えを一致させている。	A B C	A B C
9	志望校の試験日程、手続き、内容（必要書類等）について調べた。	A B C	A B C
10	併願校についても調査し、日程、延納手続きについても確認した。	A B C	A B C

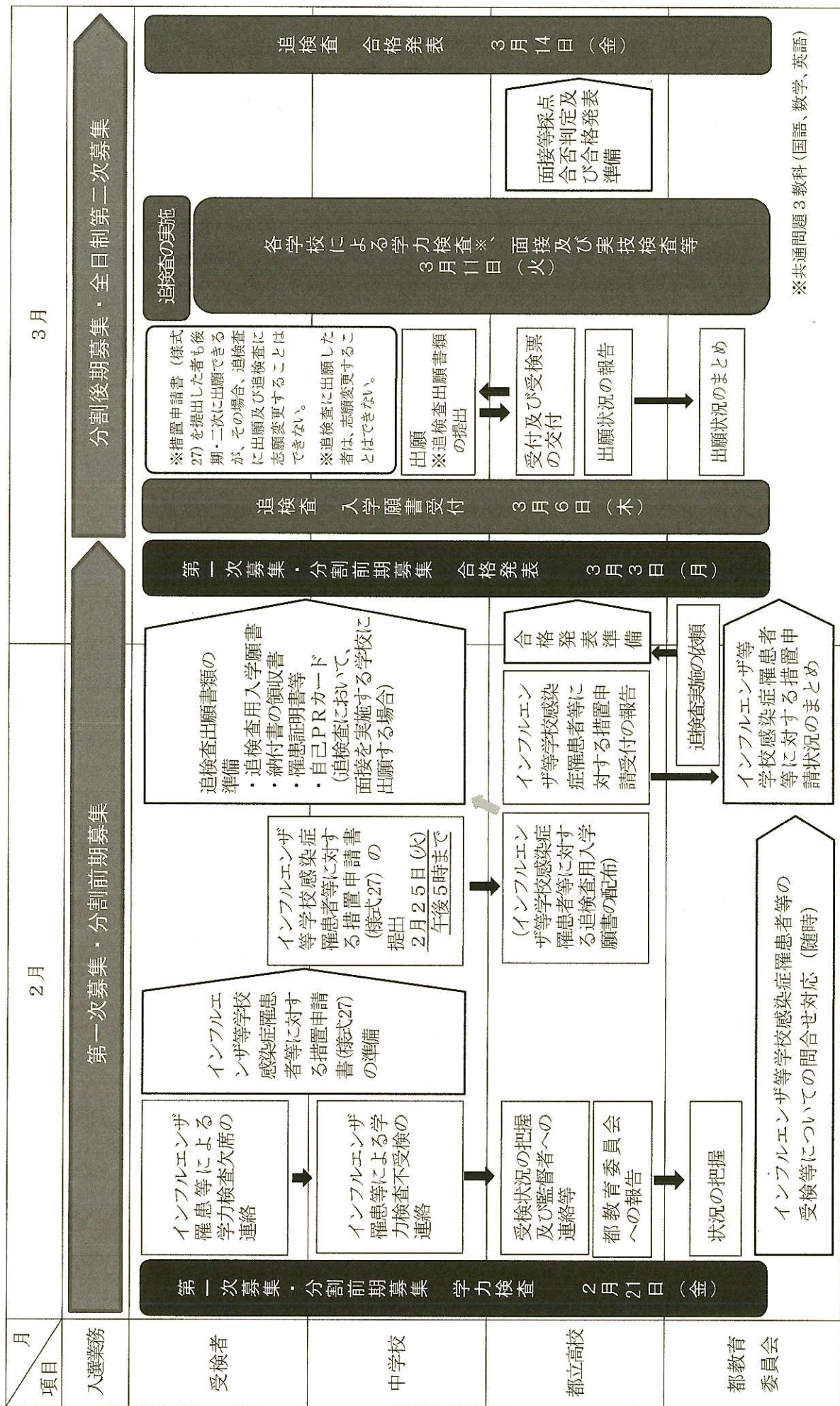
進学の大きな流れ



就職の大きな流れ



インフルエンザ等学校感染症罹患患者等に対する追検査の実施について（都内公立中学校在籍者の場合）



※国私立高校への進学等により、追検査に出願しないことが確実になった場合、その旨当該都立高校長へ電話等により連絡し、事情を記載した理由書を提出する。